羅針盤
KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL
教職を目ざす学生・卒業生のために
COMPASS
第 101 号 2014.7.19(土)　発行
関西外国語大学
教職教育センター
SCET

「羅針盤」101 号からの新たなスタート

本誌「羅針盤」が１００号という節目を向かえ、一区切りをつけて清新な気持ちを込めて新たな船出をします。とはいえ、本学の教職を目ざす皆さまには、これまでの多くの先輩が営々と築かれてきた輝かしい実績と伝統は変えようもなく、それらを踏まえ、さらなる前進と進化を図りたいと考えます。古い格言で“Rome was not built in a day”(ローマは一日にしてならず)にあるごとく、私たちは、これからの道を一歩一歩、コツコツと地道に進み、一人一人の夢を叶えるよう勉学に努めましょう。

羅針盤 101 号に寄せて

「人を育てる」ということ

短期大学部　教授　明石一朗

「羅針盤」が 101 号として新しくスタートした。この間、10 年に渡って岡澤先生をはじめ編集発行に携わってこられた方々の熱意とご努力に敬意を表し、この素晴らしい歩みを引き継ぎ、一層発展させていかなければならないと思う。

ところで、教育とは「人を育てること」と言われるが、小学校現場で子どもの「教育」に携わってきた経験から思うことがある。

6 年生の児童が平和集会を企画し、「平和アピール」をすることになった。教師の側には、この集会をきっかけに子どもたちの自主性を引き出し、「自ら思いを発信したい」という行動につなげるねらいがあった。複線は、４月からの「あいさつ運動」だ。はじめの頃は、まだまだ声もそろっていないし、元気も少なかったが、子どもたちは、休み時間に集まっては、今日の取り組みはどうだったか、児童集会でのあいさつをどうするか等、毎回話し合いながらみんなで進めていった。回を重ねるごとに、話し合いの大切さを実感しはじめていく。

教師が一方的に話して行動させるのではなく、自主的に「考え、動く」ことを丁寧に指導することで「あいさつ運動」も「平和集会」も充実感や達成感のあるものとなった。子どもが目をキラキラさせて意欲を高めるとき、「育ち」が見られる。

そのポイントは何か。

① 目標やねらいを確認すること

はじめに「どれだけ、この取り組みが重要なことなのか？価値があるのか？」をしっかり伝える。これによって子どものモチベーションが大きく左右される。「こんな仕事、なんでわたしたちがしないといけないんや」などと思うと、その時点で成長は止まる。

② レビューを必ず行うこと

実際にやってみて、上手くいかないケースもある。そんな時に、タイミングの良いアドバイスをする事が大事である。やりっぱなしでは、子どもは成長しない。そのために、定期的なレビュータイム（ミーティング）の場を作り、進捗状況を聞きながら、コーチングをする。

③ 達成感を感じさせること

「自ら考え、動く」を習慣化させるには、子どもたちに達成感を与えなければならない。達成感は、子どもに自信を与え大きく成長させる。活動によって子どもたちがどれだけの達成感を味わえるかが重要だ。自己肯定感は、まわりの子どもたちや教師の励ましの言葉で高まる。「がんばっているな」と思ったときは、タイミングよく褒めることである。

子どもの日々の成長は、教師の成長にもつながり、「学校力」を向上させる。

「一日の長」

英語キャリア学部 教授　渡邊 一郎

「一日の長」：広辞苑によれば、（論語「先進」より）他の人より少し年をとっていること転じて、経験や技能などが他より一歩すぐれていること　とある。

合格した者と不合格だった者の差は紙一重、あるいは、その結果に至ったのは一日の長があったということだろう　と評せられることもある。それらの言葉に含蓄されている意味合いは真に深く、真に重い。アキレスと亀の話を知っているだろうか。

足の速いものの代表としてのアキレス（アキレス腱に名を残している）と、足の遅いものの代表としての亀が競走をする話である。亀がハンディをもらって先行していて、それをアキレスが追いかける。当然の結果として、程無くしてアキレスが亀を追い越して勝利するものと思われる。

ところが、次のように考えてみるとどうだろうか。アキレスが亀を追い越すには、まず先行していた亀がいたところまで追いつかなければならないはずだ。その為には、なにがしかの時間がかかる。するとその時間で、亀はまたなにがしかの距離を先行することになる。そこでまた、先行している亀がいる所まで、アキレスは、まず追いつかなければならず、その為にかかる時間の分、また亀は先行する。これは延々繰り返される為、アキレスは永久に亀に追いつけない。というのだ。

これは「アキレスと亀のパラドックス」と呼ばれる有名な話である。

後から追いかける者は先行している者に永久に追いつけないのか？というと決してそんなことは断言できないはずだ。他者との比較であれば、一日の遅れなどはいくらでも取り戻せる。し

かし、一日分先を行く自分に、一日遅れの自分はいくら頑張っても追いつくことは出来ない。先を行く自分が、一日遅れの自分と同じ努力をする限り、一日の差は永久に縮まることはない理屈である。
「いつ始めるのか？」種々の場面で耳にしたことだろう。「今でしょ！」耳タコだと思う。
しかし、「今でしょ！」は言いえて妙である。

「命を」学ぶ、「命と」学ぶ

和泉市立信太中学校 教諭　庄司 健太（外国語学部平成 22 年 3 月卒業）

平成 21 年秋、大阪府教育委員会から「合格」の採用通知をもらい、春からの「教員」としての生活を心待ちにしていました。「英語をどうやって教えようか」「部活動はバレーボール部を持つことができるだろうか」など、前向きな思いはどこまでも広がっていました。

しかし、私の赴任先は、大阪府立岸和田支援学校でした。私の教員生活が「期待」と「不安」でのスタートでした。

最初の赴任校で「命は大切にしなければならない」ことを学びました。

この当たり前のことを、どれだけ自分のこととしてとらえながら日々生活を送ることができているでしょうか。「中学校」というフィルターで考えてみてください。私自身、中学校生活を思い浮かべても、そのような大きなテーマについて考える機会は少なかったように思われます。私は今「教員」という立場から、昨年度までの 4 年間の経験を活かし、今の中学生に「なぜ命が大切なのか」ということがわかる人間に育ってほしいと強く思っています。

教員採用試験の合格通知をもらってから昨年度まで、私は大阪府立岸和田支援学校で勤務していました。そこは、一般に「肢体不自由」と呼ばれる障がいを有する生徒が通う学校で、昔から夢見た「英語の教員」とは、かけ離れた 4 年間だったように思われます。関西外国語大学で学んだこと、留学経験から得たものを活かすことができず、悩む日々も少なくありませんでした。

障がいの程度は生徒によって様々です。その中でも私は比較的障がいの重い生徒を担当し続けました。特に健康上の配慮が多い彼らと日々過ごす中で、胸を痛めたことも、また共に楽しい時間を共有できたことも、思い返せば私は生徒にたくさんのことを教わった気がします。毎日、命を輝かせながら生活している彼らのことを思い出すと、今でも胸が熱くなる瞬間があります。

今年からは和泉市立信太中学校の教員として、2 年生の担任をしています。校種が変わり、仕事もまだまだ周りに聞きながらしなければいけない状況ですが、私は自分の強みを忘れずに生徒に指導していくつもりです。自由に自分で考えることができる中学生を前に、自分が指導できることは「今を大切に、限りある時間を大切に過ごしてほしい」ということです。当たり前のようですが、私はこの強みを生かしながら、またこの学校で生徒と共に成長したいと思っています。

これから教員を目ざす学生の方も多いと思います。どうか、英語だけにとどまらず、ほかの誰にも負けない、自分の強みをもって教員になってください。みなさんと勤務できる日を心待ちにしています。

「当たり前」と「思いやり」

大阪市立信光陽特別支援学校 教諭　松永 麻実（外国語学部平成 19 年 3 月卒業）

2007 年 3 月に英米語学科を卒業しました松永麻実と申します。現在は 3 年間の私学での講師経験を経て、大阪市立光陽特別支援学校で教諭として勤務しております。今年で特別支援学校も 5 年目となりました。今回はみなさんに「当たり前」「思いやり」この２つの大切さを知ってほしいと思い、栄えある羅針盤 101 号に寄稿させて頂きます。

新任の頃を思い起こすと、初めての特別支援学校、ましてや肢体不自由校ということで何が「当たり前」か判断することすらできませんでした。郷に入っては郷に従え。多くの先輩教員を良い手本とし、生徒への声のかけ方や一人一人の実態把握の仕方を学びました。それぞれの学校で様々なやり方があると思いますが、まず信頼のおける先輩の姿を真似てみてください。そこから自分のやり方を見つけることが大切です。

「思いやり」は生徒へはもちろんですが、TT が基本の現任校においては教員同士にも特に大事です。相手を尊重し、自分の意見も言える関係作り、そして周りからの信頼を得るための真面目な勤務態度が現場で求められると感じます。

最後にわたしは初任で特別支援学校の配属になりました。特に希望していたわけでも知識があったわけでもありません。しかし、今は生徒やその家族との出会いがわたしにとってかけがえのないものとなっています。皆さんの中にもわたしのようなケースの方が出てくると思いますが、熱い思いと曲がらない信念があればどこの学校へ配属されても大丈夫です。みなさんと一緒に教壇に立てる日を楽しみにしています。

教師を目ざすあなたに知ってほしいこと（続編）

愛知県知立市立竜北中学校教諭 内田 綾<旧姓 椋原（むくはら）>（外国語学部平成 17 年 3 月卒業）

「むくはら、ありがとう!!」
これが、生徒からもらった一番忘れられない言葉。

この言葉は、大阪で 3 年担任をしていた時、いわゆる「やんちゃ」が卒業間近の合唱コンクールで叫んでくれた、言葉。何回学校中を探し回っただろう。夜中に家出先を探し回ったこともあった。何回煙草を取り上げただろう。何回お母さんの涙を見ただろう。手がかかるけれど、大好きな男の子だった。その学校では、3 年の合唱コンの間奏の時、クラスによってはサプライズで担任にメッセージを贈る習慣があって、正直、「私になついているあの子達、何か言ってくれるかな」と、女子に期待してはいた。けれど、まさか毎日私に「死ね、うざいんじゃ、ついてくんな、うっとうしい」を繰り返していたあの男の子が、一人で叫んでくれるとは思わなかった。女子に焚きつけられたのだろうな、とは分かったけれど、涙が止まらなかった。教師をしてきて良

かった、と心の底から思えた。
　教員生活は、本気で生徒と向き合おうと思えば仕事は尽きない。プライベートがなくなるほどに。私の「教師像」は、こんな感じである。だから、ずっと教師でいたいと思う。
「364 日しんどい。１日、生徒が言葉にできないほどの感動をくれる。せやから、楽しい。」

いよいよ「教員採用選考試験」本番！

　今年度も、７ 月末から教員採用選考試験が始まる。そこで、「面接試験の直前ポイント」についてまとめた。

１．面接官が「この人と一緒に仕事がしたい」「この人は是非、先生になってほしい」と、強く思うことである。
　面接では、質問されることに正確に答えようとすることも大事だが、身体全体からにじみ出る「オーラ」が重要となる。それは、身だしなみや、服装や、お辞儀の仕方や、笑顔や、話し方など、その人の雰囲気から感じられる「前向きな姿勢」である。
　まず初めに、面接室への入り方と出方の実際を練習すること。次に、面接で聞かれる主な内容は、次の３つ。
　①　志望動機、②自己認識、③将来展望である。
①は、必ず聞かれるので、１分間で話せるように十分準備をしておくこと。
②は、あなたの長所や今までがんばったことなど、自分自身をどう見ているのか、簡潔に伝えられるようにまとめておくこと。
③は、どんな先生になりたいのか、教員になって何をしたいのか、教育観や教師像を明確にしておくことである。

　以上の準備をした上で、もし答えられない質問が出されたら、「すみません、緊張していて、うまく答えがみつかりません」と素直に伝えることも重要である。面接官は、受け答えの様子から、あなたの人間性を見ているのである。

２．面接試験に向けて

《面接対策振り返りメモ》
・絶対にこれだけは実行しようというものをまとめる。例えば、入室、挨拶、聴く姿勢、目線、表情、話し方など

《自己ＰＲ》について
・自分の話し言葉になっているか。鏡を見て練習。鏡の自分に笑顔で励まそう。

役者のように、教員をめざす最高の自分になりきる。

- 自己ＰＲ文を◆自分の得意な分野を明確なキーワードで、◆教育ボランティアなどの経験も、◆さらに３つ教員力（授業力・子ども理解力・保護者対応力）の理解を、◆ぜひ教員になりたい自分の決め言葉を構造化し、理想とする教師像を、◆エントリーシートの志望欄の再点検を、◆面接ノート等に書いている質問予想課題の回答例を、などである。

《簡潔なキーワード》

- 授業関係･･･教材研究こそ命、子どもが学びたいと思える、学びの場づくり
- 生徒指導関係･･･（不登校、いじめ、虐待･･･）受容と共感的理解、やさしさときびしさ、子ども保護者への支援、連携と共同の取組
- 教員の資質･･･学び続ける教員、社会人としての自覚、組織人としての責任
- 服装、持ち物、時間に遅れないための確認、会場までの道順は事前確認と体調管理をしっかりと。

《面接の前日》

- 振り返りメモ、面接ノートなどで再点検
- 改めて、自己 PR 文を面接会場にいる自分を思い浮かべて読む
- 再度、持ち物点検と、明日早めに起きられるような、めざまし、家族に頼むなど安心して眠れる準備をする。

《面接の当日》

- 会場には少なくとも３０分前には着くよう逆算して余裕を持って起きる。
- 食事、トイレを済ませ。ゆっくり新聞を読んで（教育時事チェック）、事前点検の通り、持ち物、服装、エントリーシート、メモ・面接ノート忘れずに。
- 途中、何らかのトラブルで遅れるかギリギリになる場合は、必ず、会場に連絡し、会場に着いたら、受付を済ませ、まずトイレを確認、会場周りを眺める余裕を。
- 待機場所、または教室に入場しても周りに惑わされず、静かに待つ。友人がいても他の人に気遣い、大声は出さない。
- 受付で配られた注意事項はしっかり読んでおく。
- 面接の前にトイレに行く。
- 携帯電話の電源をオフに。
- 本当の直前、背筋を伸ばし、腹式呼吸で大きく３回深呼吸。後は、失敗してもニッコリ笑える自分でいること。終わったらおいしい物を食べて自分に元気を与えよう。

（Ａ）

シリーズ①　「心の窓を少し開いて！」

本号より、シリーズ　「心の窓を少し開いて！」を掲載します。学校現場の話や時々の教育問題などを取り上げます。ご意見やご感想などをお寄せいただけましたら幸いです。

（連絡先：itiakasi@kansaigaidai.ac.jp まで）

【元気で笑顔いっぱいの先生こそが「最大の教育環境」】

学校教育の基本は「場を清め、礼を正し、時を守る」こと言われます。

先日、大阪の伊丹空港を利用して感動したことがありました。トイレがとても美しいのです。一国の玄関は空港と言われますが、外国から来た人々は、国の印象を空港のトイレから持ちます。帰国時も空港のトイレから旅立ちます。

では、一般的に学校のトイレはどうでしょうか。校舎が古くても美しいトイレはつくれます。新しい校舎でも掃除の行き届いていない汚いトイレがあります。夏のキャンプで「来たときよりも美しく」というキャッチフレーズがありますが、その心構えはキャンプの時だけではありません。毎日の学校生活でも「朝、来たときよりも、放課後は美しくして帰る」という意識をみんなが持てば美しい環境は整います。一人ひとりの意識の問題と思うのです。

「木は気を持つ。石は意志を持つ。では、あなたは何を持つか？」という詩があります。教員という仕事は、どんな志を持って子どもに日々接するのかが重要です。

もうすぐ、８月６日と９日のヒロシマ・ナガサキ被爆忌年日がやってきます。多くの小・中学校では、「平和登校日」として、その日はいつもより強く平和を願う取り組みが行われます。その気持ちは、先生方や子どもたちの表情や態度に表れます。先生の心構えや熱意が子どもの心に通じる場面です。学校の職場に若い先生が多くなってきました。教員には３つ（「授業力」・「子ども理解力」・「保護者・地域対応力」）力が求められますが、元気で笑顔いっぱい、子どものことが大好きな先生の存在こそ、子どもたちの「学びと育み」を支える根元であるのではないかと思います。

編集後記―――教職教育センターより―――

みなさんは、セミの羽化の瞬間を見たことがありますか。厳密には瞬間ではなく、かなりの時間を要します。子どものとき、羽化前の幼虫を捕まえてきて、祖父母の家のカーテンにつかまらせ、何時間もその様子を見つめていた記憶があります。外に出たばかりのセミの羽は、若草色というかアップルグリーン色というか、そういった淡い色をしていて、ふにゃふにゃで、飴細工のような、繊細で魅力的な状態が少しの間続きます。

あれから月日が経ちますが、もう一度だけ見てみたいと、毎夏学内で抜け殻ではないセミを探し続けています。見つけたらぜひ観察して欲しいのですが、空き時間１コマ分では足りないかもしれません。